特別講演

主催　ゲノム医学研究センター病態生理部門
後援　医学教育センター 卒後教育委員会
2019年5月23日　於　毛呂山キャンパス　15号館
オルコスホール2階1522教室

中東地域における難民の現状と赤十字社による医療保健支援

五十嵐　真希

（日本赤十字社国際部　中東地域首席代表（兼）国際赤十字赤新月社連盟（IFRC）
中東北アフリカ地域緊急災害保健コーディネーター）

今回の学術集会は，五十嵐真希先生（日本赤十字社国際部中東地域首席代表（兼）国際赤十字赤新月社連盟（IFRC）中東北アフリカ地域緊急災害保健コーディネーター）に講師をご担当いただいた．五十嵐先生は日本赤十字社と国際赤十字赤新月社連盟でそれぞれ異なるお仕事を担当されており，過去20年近くの殆どを海外で過ごされている．今回，五十嵐先生がご出身の北里大学国際貢献賞を受賞されて一時帰国されることに併せて，埼玉医科大学での学術集会が実現した．

五十嵐先生のご講演は，まず，赤十字発足の経緯から始まった．スイス人のビジネスマンであったアンリ・デュナンという方が，負傷した兵士は一人の人間として扱われるべき，という信念に基づいて赤十字が設立され，その思いは150年以上脈々と続いているという．さらに，赤十字のシンボルとして，「十字」の他に，「新月」や「クリスタル」が使用されている説明があり，そのバッジが現地での防弾チョッキの役割を果たしている，という身が引き締まる説明があった．

さらに，日本赤十字の国際活動として，3大疾病（HIV・エイズ，結核，マラリア）やさまざまな感染症への取組が紹介された．五十嵐先生は，北里大学薬学部のご出身で，大村智先生（2015年ノーベル賞生理学・医学賞）の研究室で卒業研究を行った．当時，研究室で研究されていたイベルメクチンという薬が，今，アフリカでオンコセルカ症やリンパ管フィラリアの薬として使われていることに，不思議な縁を感じるとのお話であった．その後のご講演も，五十嵐先生が7年間滞在されたアフリカでの活動内容や，現在滞在中の中東地域のシリアやイエメンでの活動状況など幅広くお話いただいた．

五十嵐先生のご講演では，3本のショート・ムービーが紹介された．難民の子どもが「他の人に同じことを経験してほしくない．」と訴えたり，戦地で負傷した子どもを車に乗せて病院を目指す父親がやっと辿り着くと，病院が攻撃されて無くなっているなど，いずれも心が強く揺さぶられる内容であった．最後の，赤十字のスタッフやボランティアの方々も攻撃対象になって命を落としているというお話は，五十嵐先生たちの志の高さを感じずにはいられなかった．ご講演のあと，本学の医師や看護師を目指す若い方々が活発に五十嵐先生に質問されている様子を拝見して，五十嵐先生の思いが次の世代に届いたことを実感した．

（文責　片桐岳信）

© 2019 The Medical Society of Saitama Medical University　